

北海道における北前船の歴史的価値の観光資源化

プロジェクト代表者: 高野 宏康

1. プロジェクトの目的・概要

●プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、北海道の発展に重要な役割を果たした北前船の調査研究を通じて、その歴史的価値の地域観光資源化を推進し、新たな広域連携・観光ルートを開発することです。本年度は小樽・後志に加え、道内各地の北前船の歴史的関係を調査研究により明らかにし、講演、イベントなどでの情報発信、ツアー等により北前船の歴史的価値を活用した広域観光事業を推進します。

●本年度の事業内容

- ①北海道と北前船の関連文化財の調査研究(小樽、後志に加え、札幌、道南、北方四島)。
- ②北前船日本遺産登録推進協議会、学会、各地の地域振興団体に協力・情報提供を行います。
- ③講演、各種メディア等への情報発信により、地域観光資源としての定着化を目指します。
- ④地域志向型教育プログラムに成果を組込み、北海道の地域観光資源としての北前船の認知度向上と定着化を推進します。

2. プロジェクトの進捗状況について (～H29.10)

●調査研究

- ①小樽倉庫の創設者、西谷庄八および西谷家の事業に関する新出資料を多数発見しました。旧西谷邸(石川県加賀市橋立町)の未調査資料を加賀市と連携して調査を実施しました。(西谷海運の社史等を含む小樽および道内での西谷家の事業関連資料数千点以上)
- ②道内(余市、寿都、厚田、札幌)、択捉島で北前船関連文化財の調査を実施しました。ヨイチ場所産のイナウ、寿都・橋本家の系図確認、厚田の船絵馬の発見、札幌の軟石について(辻石材工業)、択捉島の北洋漁業工場跡地について等、新たな知見が得られました。

●情報提供・協力による地域観光資源化

- ①北前船日本遺産登録推進協議会、北前船日本遺産追加認定を目指す小樽市に小樽の北前船関連文化財について情報提供などの協力をしました。小樽市の追加認定申請にあたって、本研究プロジェクトによる調査研究成果、地資源化の取組みが実績・成果として位置づけられました。
- ②HBC北前船子ども調査団事業に協力しました。小樽でのワークショップ、ガイドツアー(6/17)、全国の北前船寄港地(6自治体)が小樽に集まって開催した北前船子どもサミット(8/7-9)、まっふる特別編集「北前船子ども調査団」(ガイドブック)に、監修・コメンテーター等で全面的に協力しました。



西谷家資料調査(11/6-8)

●情報発信による地域観光資源化

- ①北前船と北海道について各種地域メディアに寄稿しました。(小樽商工会議所会報、BYWAY後志、小樽チャンネルMagazine)
- ②講演、シンポジウム、ラジオ、新聞等を通じ情報発信を行い、歴史的価値、地域資源化等を道内各地に紹介しました(17件)。



北前船と銀行
(5/27)



日本遺産シンポジウム
(8/19)

3. 今後の取組予定について

- 調査研究: 西谷家資料の調査研究・情報発信を中心に進めます。
- 情報発信: 北前船日本遺産についての認知度向上、雪あかりの路期間中に開催するイベントへの協力などを予定しています。

まっふる『北前船子ども調査団』

